

平成29年度
庄原市児童生徒科学研究の進め方についての研修会

- 日時：平成29年5月26日（金）14：00～16：35
- 場所：庄原市総合体育館 2階会議室
- 参加者：庄原市内各小・中学校の教職員28名
- 目的：科学的な態度や能力を育て、問題解決の方法を習得させる科学研究の進め方について研修し、庄原市内各小・中学校の科学研究を推進する。

【実践発表】「やってみて分かった科学研究 ～自ら学ぶ じっくり考える しっかり表現する～」
庄原市立永末小学校 教諭 友國 幸絵

【特に大切にしたこと】

○研究テーマの決定

指導者は、児童が教科の学習で抱いた疑問や日常生活の中でのつぶやきを取り上げ、助言する。設定したテーマについて、何を詳しく調べたいのか等、児童とやり取りをする中で具体的にテーマを絞らせ、主体的に取り組む意欲を高める。



【参加者の感想より】

- テーマ設定が改めて大切だと感じた。今年度の科学研究を見直そうと思う。
- 普段の授業からテーマを設定し仮説等をまとめる活動を行うことで、児童主体で科学研究を進められると思った。

【協議】「科学研究の進め方について」

【協議の中で出た意見（重点的に取り組みたいこと）】

- 授業や生活の中で様々な体験をさせる等、児童が科学研究をしたいと思うような種まきをしておく。
- 科学研究に取り組む時期を早め、計画的に取り組ませる。
- これまでの科学研究作品や理科に関する本を展示し、意欲を高めるような環境づくりに努める。
- 相談会等を設け、悩みに対して見通しや方法のアドバイスをする。

【講話】「科学研究指導のポイント」

元東城小学校長 朽木 孝一



【講話から】

- 科学研究は、科学的思考力を身に付け、理科や科学に対する興味・関心、価値認識を高めさせることができるものである。
- 自然との出会いの場をつくり、主体的に関わらせる。指導者は、日頃から子供の気付きや不思議をストックしておくとともに、子供にもメモをとらせる等の指導をしておくことよい。
- 指導者は、テーマ決定するときには完成までのシナリオを描き、見通しをもって計画的に取り組ませる。
- まとめは、ねらいに沿ったもので、論理の一貫性をもたせることが重要である。

【参加者の感想より】

- 科学研究の基本的な進め方と各段階での指導のポイントがよく分かった。
- 「意図的に自然の中に子供達をいざないなさい。」という言葉が心に残った。今後の指導に生かしていきたい。